

新聞記者から見る 歴史像の現在

— 日本人の歴史意識を考える —

歴史の研究は、その成果が社会に還元されて初めて意味を持ちます。歴史研究者は一般向けの著書や講演などにより、歴史を知りたいという市民の欲求に応えようとしているわけですが、歴史に関わる話題を取り上げるジャーナリズムも歴史研究と市民をつなぐ回路の一つといえましょう。

ジャーナリズムから見ると、現在の日本人の歴史像はどのようなものとして映るのでしょうか。それは歴史研究の成果による歴史像と一致するのでしょうか、しないのでしょうか。日本近代史の研究者によるコメントを交えて、近代以降の日本人の歴史意識を検証してみたいと思います。それは、韓国併合 100 年にあたって、アジアのなかの日本を意識する試みでもあります。

2010年10月30日（土）

14:30（14時開場）～17時

会場：早稲田大学早稲田キャンパス
7号館 209号室

*会場が変更になる可能性があります。その場合はWEB
サイトで告知し、当日に貼り紙を出してご案内致します。

講師 **渡辺延志氏**

(朝日新聞社東京本社)
文化グループ記者

コメント **大日方純夫氏** (早稲田大学文学学術院教授・日本近代史)

講師からのメッセージ

当たり前だと思っている私たちの
歴史像はどのようにしてつくり
たのでしょうか。

資料代 500 円

【会場アクセス】

JR山手線（高田馬場駅 徒歩 20 分）／西武線（高田馬場駅
徒歩 20 分）／地下鉄東京メトロ（東西線 早稲田駅 徒歩 5 分）
／（副都心線 西早稲田駅 徒歩 17 分）／

◇事前申込は不要です。お問い合わせは下記まで。
一般財団法人 歴史科学協議会
(☎03-3949-3749)

114-0023 東京都北区滝野川 2-32-10-222

E-Mail rekihyo@mx10.ttcn.ne.jp

WEB <http://wwwsoc.nii.ac.jp/rekihyo/>



大隈銅像の隣の
建物です！

